

令和元年度 中部地方整備局ダム事業費等監理委員会及び部会

議事要旨

日 時：令和元年 8 月 21 日 14:00～17:30

場 所：名古屋ダイヤビル 2 号館 222 会議室

出席者：松尾委員長、井上委員、小川委員、高木委員、松本委員
各部会の構成員

- 議事次第： 1. 開会
2. 挨拶
3. ダム事業費等監理委員会
1) 委員会の枠組みの変更について
2) 委員会規則（案）及び部会運営要領（案）について
3) 監理すべき主たる項目等について
4. ダム事業費等監理部会
1) 新丸山ダム建設事業部会
2) 設楽ダム建設事業部会
3) 三峰川総合開発事業部会
4) 天竜川ダム再編事業部会
5. 閉会

議事：

- 委員会規則（案）及び部会運営要領（案）について了承。

いただいた意見：

【全事業共通】

- 事業執行状況の明確な把握に向け、部会資料については、今後は以下のとおりとされたい。
 - ・流域の現状は、現状の経年変化とダム事業との関係がわかるようにすること。
 - ・前年度予算の執行状況は、実際に減額なのか、実施内容を先送りしたことによる減額なのかがわかるようにすること。
 - ・当年度予算の執行予定は、前年度予算と比較できるようにすること。
- 事業の進捗状況については、事業費の執行率だけでなく、事業が予定どおり進んでいるのかがわかる示し方について検討されたい。
- 将来の運用の最適化や維持管理コストの縮減を考慮した検討を行うこと。
- 従来の工法を重視するのではなく、維持管理面で優位でかつ機能を発揮できる新たな工法であれば、積極的に採用しコスト縮減に努めるべき。
- 様々な分野で IT 技術を活用している中、ダム事業においても IT 技術を活用したコスト縮減について更に取り組んでいくべき。
- 地域振興の取り組みについては、引き続き実施していくとともに、ダム周辺整備やダム施設整備も含め、これからの時代に相応しいより魅力あるダムづくりを進めていくべき。
- ダムのような大きな工事は減多にないので、社会見学など、学校教育へのアプローチも重要である。

【設楽ダム】

- 付替道路については地域住民の関心が非常に高いので、着実な道路の進捗に向け、十分な情報提供や工程管理をされたい。
- 建設予定地の地盤について不安視されている意見もあるので、不安解消に向け、情報提供等に努められたい。

主な質疑

ダム事業費等監理委員会

- 「維持管理段階での最適化」によるコスト縮減について、これまでは具体的に議論を深めてきていないが、今後は維持管理の視点も含めて議論をしていくということか。またダム建設段階での初期投資費用は増額となるが、将来の維持管理も含めた全体費用として考えた時にはコスト縮減となるといった内容も議論していくことになるのか。
⇒建設段階のダム事業における予算執行状況について毎年ご確認いただき、ご意見をいただいていたところであるが、今後、ダム本体や付随設備等に着手していく段階となるので、これまで以上に将来の維持管理を想定した上で、建設、管理を含めた全体としてのコストを意識していく必要があるため、ご意見をいただいていたと考えている。

新丸山ダム建設事業部会

- 原石山の地質調査において、歩留まりが悪いとは、これまでの地質調査結果から利用可能な骨材の採取が難しくなったのか。
⇒これまでの地質調査結果を踏まえ、より効率的な採取範囲を確認するために追加の地質調査を実施した。今回、骨材が利用出来なくなったわけではない。
- 本体工事に関連する転流工は、本体工事前に完成するのではないのか。
⇒現在、転流工の施設運用は、本体工事と同一年度にて進めることとしている。

設楽ダム建設事業部会

- 平成30年度から令和元年度で測量設計費のダム本体関係、用地・建物調査の予算が増額したのはなぜか。
⇒令和元年度の測量設計費について、ダム本体関係はダムの湛水池周辺の法面対策に関する調査・解析を早期に完了させるため、用地・建物調査においては今年度新たに付替県道小松田口線の用地調査に着手するため予算を増額したところである。
- コスト縮減として小松田口線の交差点の位置の変更を挙げているが、当初から想定しなかったのはなぜか。
⇒小松田口線の交差点位置については、交差点付近で地元町の湛水池周辺整備計画が近年策定されたことにより、設計の見直しを行ったところコスト縮減が可能なため変更を行ったものである。
- 付替道路工事はどのような優先順位で進めているのか。
⇒付替道路工事については生活再建を優先して進めているほか、工程上クリティカルとなる箇所から進めている。

三峰川総合開発事業部会

○令和2年度以降の残事業費が約28億円という状況のなかで、今後の事業規模を考慮して総事業費は満足しているのか。

⇒当初想定していた主構造物は完了するが、施設運用を安全・効率的に行うための整備等が必要と考えており、それらを踏まえて検討の余地があり、現在精査を進めているところ。

○令和2年度に施設は完成するのか。

⇒試験運用に必要な施設は、令和2年度に完成予定であり、安全に運用するための施設工事を試験運用期間中に実施する。

天竜川ダム再編事業部会

○事業完了が令和3年度である一方、予算の執行率は14%であるが、事業をどのようにしていく予定か。

⇒継続して検討を進めてきた堆砂対策工法についての骨子が固まったところであり、現在、事業完了までの新たな行程について精査を行っているところ。

○治水対策の検討状況はどのようになっているのか。

⇒治水対策については、増設放流設備も含めて検討を進めている。堆砂対策も含めて内容の精査を行っているところ。

以 上